

小学校高学年における教科担任制の充実

中核校	岩見沢市立東光中学校	指定校	岩見沢市立岩見沢小学校、 岩見沢市立東小学校
-----	------------	-----	---------------------------

実践前の状況

- ・小学校における学級担任（高学年）の教材研究に充てる時間が十分に確保できていなかった。

実践の概要

小学校高学年における教科担任制

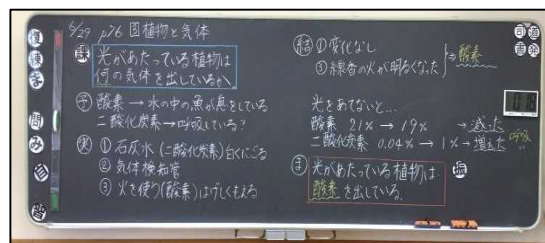
- ・中核校の理科教諭が、2校の指定校において、第5学年2学級、第6学年4学級、週18時間の理科の授業を行うことにより、当該学級担任の空き時間が生まれ、教材研究に充てる時間を確保することができた。
- ・小学校では具体的な「自然の事物・現象」を扱うことから、「体験」を重視した授業を行い、身近な自然の事物・現象から生まれた「なぜ」に対し、自分たちで話し合っ仮説を立て、自分たちで解決方法を考え、実験・観察を通して体験的に学び、課題を解決していくことを大切に。一方で、中学校では、「体験」を通して「概念や原理・原則」の理解を図る資質・能力の育成が必要であるため、「体験」と「概念」のバランスを考慮し、中1ギャップ問題の解消を意識した授業を展開した。



【中核校教員による授業の様子】

小中の授業ルールやスタイルの共有

- ・小学校と中学校の円滑な接続を図るため、学習過程（課題、予想、まとめ、振り返りなど）実験や話し合いの進め方等、統一した授業スタイルで授業を行った。



【中核校と統一された板書】

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・専科教員の時間割を工夫することにより、学級担任の空き時間を十分に確保し、教材研究の時間等に充てられるようにした。また、専科教員と小学校の教員の連携が図られるように、職員室の座席配置を工夫し学級担任と連携して子どもたちを指導するという機運を高めた。

〔専科教員の取組〕

- ・実験や観察器具の不足を指定校間で貸与することで、少人数での実験・観察を行うことができ、児童が主体的に学習に参加できるようにした。
- ・教科の特性を生かした指導や学級担任と異なる観点から児童を観察することにより、学習意欲の喚起やきめ細かな生徒指導を行うことができた。

成果（ ）と今後の課題（ ）

小学校における学級担任の教科時数の減少により、教材研究の時間が生まれ授業改善が図られたことから、児童の学習内容の理解に高まりが見られた。学校評価アンケートの「勉強が分かる」と肯定的に回答した児童が増加した。（R4：87.3% R5：93.7%）

学級担任と専科教員との打合せ等を放課後に行うことになるため、十分な時間を確保するために工夫する必要がある。